

.....
工事發達史傳

鐵道の元勳

井上 勝

我國の鐵道工事發達に滿身の努力を捧げた井上勝氏の正面觀、本號にて一先づ終る。(係)

× × ×

曩に伊藤工部郷の計畫によつて設立された工部大學は此年第一回の卒業生を出した。

建築學科を卒へた片山東熊後の工學博士も、この名譽の第一回卒業生で、早速工部省に致仕するごころなり井上工部大輔から辭令を渡された、恭しく拜受した彼は、折から來訪客の大輔と對談中、そのまゝ直立不動の姿勢を續けて居つた、客の退出するや、井上大輔はいきなり

「こゝはお前達の居るごころではない、辭令を貰つたら、サツサツとあつちへ行つて用務につけ」

後年片山博士内匠頭となるや、退官後の井上子爵參内の折には、必らず内匠頭室に立寄る例となつてゐた

たまたま宮中御煤拂當日で吉例下賜の御料理が片山博士の卓上にあつたのを見た井上子爵

「君達は毎日そんな御馳走を食ふて居るかその大きなカマボコを貰つて行くぞ」
 官用卷紙を引き裂き、グルグル包んで、小脇にかゝへてサヨナラ

彼は一日片山内匠頭を其邸に招き、自ら工夫した室内の裝飾を示し、置ストーブの煙筒をペンキで青竹に擬して得意滿面、さすがの内匠頭も啞然として撻揆に窮した、食時の時刻も疾くに過ぎ、空腹を忍でゐるたるに、漸く

にして膳部がはこばれた、見ればこはいかに握り飯に香の物の外食ふべき何物もない、

× × ×

箱根山中、神山の麗、二ノ平さへば、今でこそ登山電車を通じて、すぐ上に強羅が開けまことに便利となつたが、其頃はカゴより外に交通の便がなかつた。その二ノ平に彼の別荘地がある。千坪ばかりのうちに茅屋一棟、こゝに番人を住はせ、周圍は垣もなく開放されてあつた。時折瓢然として徒歩登り來る彼

は粗末な亭の切株に腰打ち掛け喫煙一服、渴すれば路傍の流水を掬ひ、飢ゆれば自ら樹根を掘りて食らふ。また人手を煩はさず、黙々として休養の後去る。

宮ノ下富士屋ホテル主山口仙之助、箱根は俺の天下ごばかり、馬上ゆたかに乗りまはし、トボトボテクリ行く鐵道局長に追ひ付き「オイ井上君！待ち給へ」

× × ×

彼れ退官の後も尙、鐵道の改良發達を念ふごころ少しも昔日ご渝らず、事に托しては至る所線路を巡視し、その見聞するごころを當局に忠告するを常とした。

日英博覽會の開設するや、六十八歳の高齡にして宿痾ある身をも顧みず、彼は近親の諫止を排して、歐州鐵道視察の途に上つた。

倫敦に在る門弟等歡迎の準備、をさをさ怠りなく、一等旅館の一室を借り切り、今やおそしご待つてゐた。

彼の倫敦に到着するや、出迎への群集にまぎれて、いつしか姿を見失ふた門弟等の驚き一方ならず、八方搜索の結果、いごも見苦しき木賃宿の一室に彼を發見した。

彼は倫敦に留るごころ旬日、更に歐大陸の鐵



故二位勳一等子爵井上勝銅像

道を巡視し、再び倫敦に渡りて、歸裝の準備中俄然宿痼激發、遂にヘンリツタ病院にて薨去したのは明治四十三年八月二日であつた。

彼の薨するや、親近集まりて遺産を検するにあますものはたゞ邸宅に恩賜金のみ。

彼の公利を謀るに急にして、私利を營む疎なりしや知るべし。

東京驛頭丸の内廣場を謁見して建つ銅像一基

故正二位子爵井上勝銅像銘に曰く

君自明治初年専任
創設鐵道之事拮据
經營基礎始立盡心
斯業抵老不憚四十
三年夏力疾訪制歐
洲歿于塗次可謂斃
而後已矣茲同志胥



謀鑄君像置諸東京
事站以傳偉績於不
朽云

今や國有鐵道の延長八千哩に及び地方鐵道

また三千哩に達す。一年間の旅客乗車人員實に六億三千五百萬人收入二億五千萬圓、貨物の數量七千萬噸收入一億九千萬圓、停車場の數二千四百——東京驛の一日の乗降客六萬人を算し、さしもの驛前の廣場も、人自働車で埋つてゐる。

この盛況に導きたる彼の非凡なる偉績に想到すれば彼を

鐵道の神様と崇めまつるは當然である。

(昭和三年三月八日、日生)

(37頁より續く)

極めて必要である。又た適當に施行せんか、決して背反を來す虞れ等は之無きものである構造接合は最小の應剪力に一致するを以て、床版の中心線に沿ひ、或は梁或は桁の徑間中央に於て、混凝土の注入を中止する事ありとするも、更に支障なし。斯る場合若し梁にして桁と切合ふ場合は桁の接合點を梁の幅員二倍に等しき距離迄張りなせしめ、然る上に型枠内に閉塞木を取付けて、垂直なる接合面を構成す可きである。再び仕事を續行せんる時は、曩に敷設したる混凝土面を清掃したる後、之をザラザラの粗面となし、水にて充分飽和し、次に純セメント、モルタルを塗り、其初期凝結前に於て、混凝土の新規注入を開始す可きである。

混凝土の構造接合 延長一百呎以上の建物に對しては、構造接合は建物を横斷して設置し此接合に直角に特別の鐵筋の補強を爲す可きである。此鐵筋材は接着に依り補強の強度を發生するのである。此補強材は接合部の兩

側に沿ひ充分なる距離に延長せしめ、主體張力鐵筋の部材は反對側に取付くるもので、其斷面積は接合點に於ける、主體部材の横斷面積の 0.5% よりは尠なからざるものとす。

根切中に湧水あるを認むる時は、混凝土の敷設前に於て、之を排除す可きは勿論、水の流出は嚴正に防止す可きである。夫れは新たに敷設したる混凝土中のセメントを洗出するからである。水密を要する構造接合に關し、米國の聯合調査委員會の獎勵する施工法を紹介す、乃ち左の通りである。

(a) 水平接合は混凝土の下部に接續せる縦栓溝を構成したる後、混凝土が固結せざる前に於て施行する事。上置き混凝土は其敷設に先だち、接合部の冷痰巢其他外來の物資を完全に除去したる後、接合面を水にて飽和し、純セメント、モルタルを塗布し、其量が多きに過ぐる事を確認したる上に於て敷設する事。

(b) 垂直接合は擔當技術者の承認を受けたる金屬製湧水遮斷装置を用ひ施工する事。

(完)